

平成 23 年 7 月 13 日

「みんなが元気に！」ミルクプロジェクト

―震災からの復興再生を共に目指す酪農乳業の集い― 共同宣言

東日本大震災から4か月、わが国の酪農乳業が直面している現実には、依然、厳しく楽観的なものではありません。

被災地の酪農家や牛乳販売店は、将来への確かな展望が持てない厳しい状況の中で、地域の仲間たちと励まし合い、懸命に経営再建のための努力を続けています。

被災した多くの乳業工場においても、大きな損失を抱えながら、酪農家や牛乳販売店の方々と共に、経営再建の道のりを歩いて行かなければなりません。

そうした中、追い打ちをかけるように発生した原発事故による放射能問題は、ミルクのサプライチェーン全体に暗い影を投げかけています。

また、被災地の生乳生産は現在も大きく減少したままであり、節電対策の影響を受け、乳業工場の操業にも大きな困難が生じています。

しかし、私たちには、酪農家、乳業者、販売店、そして食卓へと繋がるミルク・サプライチェーンの安定を確保すること、そして消費者の方々に、安全な牛乳乳製品を途切れることなくお届けすることが期待されているのです。

震災の直後、酪農乳業界は、様々な形で被災地の方々に支援を行いました。

約6万缶の育児用粉ミルクを、いち早く送り届けたほか、全国からはロングライフ牛乳が送られました。

被災地の酪農家の中には、水や食料が途絶えた地域住民の方々の要望に応え、特別に牛乳を利用してもらう取り組みを進めた仲間もいました。

また、多くの避難者の方々が、“栄養難民”とも言える深刻な状況にある今、日本栄養士会が中心になって進めている「牛乳を利用した栄養改善」の活動にも協力しています。

さらに、避難生活を続ける子ども達と乳牛とが触れ合う機会を設ける取り組みも、始まろうとしています。これは、子ども達の“心のケア”を目指した新しい取り組みです。

「みんなが元気に！」ミルクプロジェクト -震災からの復興・再生を共に目指す酪農乳業の集い-

震災から暫くの間、東日本の広い地域で、牛乳やヨーグルトなどを十分にお届けできなかったことは、消費者の方々大変申し訳なく、また、私たちにとっても残念な出来事でした。

一方で、多くの消費者の方々から、「牛乳や乳製品が、日常の食生活にとって大切であり、特別な存在であることに、改めて気づかされました！」というご意見を頂きました。

これらのことを通じて、私たちは、ミルクが如何なる時でも、人々の健康に寄与していることを、改めて確信しました。

そして、ミルクを生産し供給する酪農乳業の社会的価値は、消費者の方々とは分かち合っ
てこそ、始めて意味があるということを、改めて認識したのです。

以上のようなことを受け、今後、消費者の方々の信頼にしっかりと応えていくため、本日、ここに一堂に会した全国の酪農乳業関係者の方々と共に、次の行動を進めていくことを宣言致します。

- 1、 ひとつ、私たちは、如何なる時でも、ミルクの価値を通して、日本人の健康と食生活に貢献できるよう、ミルク・サプライチェーンの安定に努めて参ります。
- 2、 ひとつ、私たちは、消費者の方々の信頼にしっかりと応えるため、ミルクが、放射能の規制値を超過することがないように厳格な管理を行い、これからも、安全で安心して頂ける牛乳乳製品を供給して参ります。
- 3、 ひとつ、私たちは、被災地の仲間たちを励まし、支え、一刻も早い震災からの復興と再生を共に目指します。

平成23年7月13日

酪農家代表 高橋 日出代
乳業者代表 佐々木 理順
販売店代表 瀧上 亜里佐

以上